

今回は、1分で感動より「あれはなに？」を紹介します

母が認知症になった。施設には入れずに、自宅で介護を続けてきた。施設の見学には行ったが、母をそこに入れることが不憫に思えた。

3年後。懸命な介護にもかかわらず、母の認知症は進んだ。その頃には私も介護に疲れ、少しのことでイラつくようになっていた。ある日、家の庭に野良猫がやってきた。母は猫を指差し、「あれは何だい？」と訪ねてきた。私は「あれは猫だよ。」と、少し冷たく答えた。母は1分もしないうちに私に訪ねた。「あれは何だい？」「母さん。さっき言っただろ？あれは猫だよ。」私は少しイライラしていた。母はまたすぐに言った。「ねえ、あれは何？」私は感情にまかせて母を怒鳴った。「母さん！何度も言ってるだろ！あれは猫だよ！！分からないの！！」母は恐れるような眼で私を見つめ、それからは黙っていた。

その後すぐに、私は母を施設に入れることにした。母の荷物をまとめるために部屋を整理していると、古いノートが何冊も出てきた。パラパラとめくって中身を見ると、それは母の日記で、私を産んでから数年間、毎日のように書かれたものであった。私はハッとした。それを読んでも母を施設に入れる気持ちは変わらないと思ったが、なんだか申し訳ない気持ちになって、なんとなく読み始めていた。内容はありふれたもので、『私が初めて〇〇をした。』というようなことがほとんどであった。私は大した感動をすることもなく1冊目を読み終えると、2冊目の日記を読み始めた。6月3日。もうすぐ4歳になる息子と公園に行くと、1羽のハクセキレイが目の前に飛んできた。息子は「あれは何て言う鳥？」と、私に何回も何回も訊いてきた。私はその度に「あれはセキレイって言うんだよ。」と、言って息子を抱きしめた。何度も訊いてくれることが、私をこんなに穏やかにしてくれるなんて。この子が生まれてきてくれてよかった。ありがとう。読み終わった私の目には涙があふれ、母のもとに駆け寄り、やさしく抱きしめながら泣きじゃくった。母は、そんな私をただやさしく撫でていた。

Q1：作者が日記を読んで気がついたことは何ですか？

A1：()

Q2：認知症の介護について必要な事は何でしょうか？

Q2：()